

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野
学籍番号		院生氏名	瀬戸口 ひとみ
通学キャンパス			
論文題目	地域で生活する統合失調症当事者の病いとの「折り合い」のつけ方		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 研究の概要</p> <p>本研究は、地域で生活する統合失調者が、病とどのように「折り合い」をつけてきたのか、当事者の生活史の語りからそのプロセスを明らかにしようとするものである。方法は、折り合いの概念分析にはRodgersの概念分析の手法を用いて「折り合い」の概念を明らかにし、さらに自分の病を認識し自立して1年以上の在宅生活をしている当事者9名に対してインタビュー調査を行い、Krippendorffの内容分析およびテキストマイニングの内容分析によるトライアングレーションを用いてデータを分析している。</p> <p>本研究の新規性は、これまでの「折り合い」の定義の明確化を行う概念分析と、Krippendorffの内容分析およびテキストマイニングの内容分析によるトライアングレーションを用いてデータを分析することで、結果をより詳細にかつ多面的に展開したものであり、さらに統合失調症を抱える当事者が病と「折り合い」をつけるための看護への示唆を明らかにした点で、統合失調症患者の地域生活支援に貢献する研究として評価できる。本研究は倫理委員会の審査を経て行われており、その倫理的配慮に問題はなかった。</p> <p>2. 審査経過</p> <p>審査会は2回開催した(平成28年12月1日、平成29年1月5日)。初回審査では、論文を構成する研究のつながりに問題があるとされ、一部を追加し、目的に沿った構成となるように論文構成全体の修正が求められた。二回目の審査で論文全体の構成については適切に修正が行われ、この審査で新たに指摘された点についても、加筆・修正が行われた。後日、二回目の審査で指摘された細かい部分の修正も行われ、1月14日に適格に修正されていることを3審査委員で確認した。</p> <p>3. 口頭試問においては適切な応答がみられた。</p> <p>4. 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査	宮城 純子	
	副査	井上 善行	
	副査	世良 喜子	